

# 地方創生担当統括監就任あいさつ



性化活動を行う為に平成23年1月に退職しました。

平成23年5月1日、人口減少率中国地方ワースト・高齢化率県内最高（49%）・県内最少人口の広島県『安芸太田町』に全国公募型観光協会事務局長（町第1号の『よそ者人材』）として全国116名から選ばれ就任しました。

域支援を目的とした困りごと解決プログラム開発、若手町民育成、町内初のB級グルメ開発・普及、ユニークな外国人来訪者誘致活動、町の定住移住誘致支援、町出身者による町支援組織作り、地元県立高校入学者増化支援など、多領域に及びました。

主役は町民さん、共演者は町外支援者、黒子は観光協会という役割分担に徹底してこだわりました。

新緑の候、錦江町の皆さまに於かれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は町行政に対し、格別のお引き立てを賜り、心より御礼申し上げます。さて、この度、移住者誘致活動等を含む総合的な地域活性化を目的とした『地方創生担当統括監』（特別職非常勤職員）就任にあたり、挨拶申し上げます。

私は、日本一の人口減少県である『秋田県三種町』（旧八竜町）出身の43歳で、公立大学法人高崎経済大学卒業後、大手旅行代理店に入社し、東北や関東での業務を通じて、過疎地活性化の使命感や達成感に目覚め、真の地域活

観光協会責任者としての着任でしたが、あくまで観光振興は地域活性化のほんの一部であり、総合的活性化による町民さんの『熱量の増加』が過疎地活性化の基盤であるとの信念を踏まえ、老若男女問わず、様々な立場の町民さんや、熱い志の町外支援者と共に、横断的・広域的・複合的な事業展開を重ねて参りました。一例を挙げますと、全国初の役場女性職員によるおもてなしユニットのプロデュース、最新理論による情報発信、農産物加工品開発・流通・販売、道の駅経営改革、田舎型交流体験ビジネス立上げ、地

お陰様で、着任時には、過疎の典型と称されていた町が現在では県内有数の元気のある過疎地と認知され、都市部の移住希望者が住みたい町『県内第一位』になりました。その結果、年間40〜70名もの人口社会減で悩んでいた町が、近年では2年連続人口社会増に転じるようになりました。

全ては、町民さんの『熱量』が高まり、町民さんと町外支援者の協働活動が活発化し、

その様子をTV・新聞・ネット・口コミで知った都市部住民が「あの町であれば、自分の夢や想いを叶えられるかもしれない」と考え、当町にお越しいただくようになった結果であり、さらに行政の個別施策（情報宣伝施策・観光振興施策・産業振興施策・定住移住振興施策・自治会活性化施策・個人活性化施策）を私どもが連動・連結・複合化させて、狙った市場に打ち出した結果なのです。このことは、決して特別なことでは無く、町民さんの『想い』があれば、錦江町でも実現できるのです。

但し、広島県安芸太田町は、自動車移動3時間以内に政令都市が4つもあり、約1、000万人市場が対象でしたが、錦江町と同条件下市場は3分の1以下であり、着任前に様々な専門家に意見を求めましたが、異口同音に『相当厳しい』戦いを強いられるであろうと言われました。正直

申しまして、相当厳しい戦いを、某県の県庁幹部職員への就任を断ってまで、錦江町で地域活性化のお手伝いをしようという決意したのは確固たる理由があります。

一つ目は、錦江町幹部職員さんの大変力強い熱意が感じられたことです。この熱量についてはお誘い下さった幾つもの自治体の中で最も強く、その想いにお応えせねばと本気で思いました。



安芸太田町での活動の様子